

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和元年7月25日から令和元年10月3日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年8月現在）

事業所名： (施設名) 須坂市立 仁礼保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 三木 正夫 園長 片桐 一江	定員（利用人数）：120名（90名）
設置主体：須坂市 経営主体：須坂市	開設（指定）年月日： 昭和39年6月1日
所在地：〒382-0034 長野県須坂市大字仁礼7-13	
電話番号： 026-248-2192	FAX番号： 026-248-2192
ホームページアドレス： https://www.city.suzaka.nagano.jp/	
職員数	常勤職員：10名 非常勤職員：10名
施設・設備 の概要	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・保育支援員 1名
	・園長補佐 1名 ・給食調理員 3名
	・保育士 13名 ・事務員 1名
(設備等)	(屋外遊具等)
・乳児室 … 1室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 4室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 3室	・ジャングルジム・滑り台 ・はん登棒・鉄棒

3 理念・基本方針

○須坂市の保育理念

いのちを大切に、生きる力を育みます

○須坂市の保育方針

- ・一人ひとりの人権や主体性を尊重しながら子どもの育ちや保護者の子育てを支えます。
- ・須坂市の豊かな自然や、伝統ある文化の中で、地域社会と連携して子どもを育てる環境づくりに努めます。

- ・豊かな愛情を持って接し、保育内容を充実させるために知識の取得と技術の向上に努めます。

○須坂市立仁礼保育園の保育理念

- ・すべての子どもが等しく、安心して預けられる保育園を目指します。
- ・一人ひとりの子どもを大切にし、発達の保障をします。

○須坂市立仁礼保育園の保育目標

教育：健康

- ・生命を大切にし、健康安全な生活の仕方を知っていく
- ・食育…育てる、収穫する、作って食べる、食べ物の働きを知る(ピラミッド、3色の食べ物)。
- ・身体を十分に動かし遊ぶことの心地良さを感ずる。

こころ

- ・様々な生命があることを気づく
- ・感じる心、気付く気持ち
- ・自分・友だち大好き・皆を大事にする気持ち
- ・助け合う・力を合わせる

言葉

- ・心の通うあいさつ、言葉
- ・自分の思いを伝える
- ・絵本や紙芝居に触れる
- ・地域の方の読み聞かせを楽しむ
- ・季節や様々なうたを楽しむ

創造力

- ・感じる心
- ・子どもの発想を大切に
- ・思ったこと考えたことを試してみる
- ・感動や思いを描いたり表現する

意欲

- ・地域の自然に触れ不思議なおもしろさに気が付く
- ・失敗しても何度でもやってみる
- ・繰り返して楽しむ

養護：十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当仁礼保育園は須坂市が運営する10園の一つで、昭和39年6月に認可を受け、平成24年4月に現在地に新築開園して今日に至り、現在120名の定員で運営されている。

当保育園の前身は旧仁礼保育園と旧夏端保育園に遡る。

旧仁礼保育園は第二次世界大戦中に農繁期に限り学校や集会所で短期間開設された託児所として始まり、昭和22年から昭和37年前後までは春秋を通じて4ヶ月ほど開設される季節保育園として運営され、昭和38年旧上高井郡東村の村営保育園「南部保育園」として常設され、昭和39年6月に仁礼保育園として正式に認可された。その後、昭和46年の須坂市との合併により現在の「須坂市立仁礼保育園」となり、昭和53年園児の急増によりプレハブ保育室を仮設し、昭和59年10月プレハブ保育室を取り壊し新たな保育室を増築した。旧夏端保育園は昭和43年亀倉・夏端地区に住宅団地が造成されたことにより園児が急増し、昭和54年、夏端保育園が新築開園された。

平成23年6月から、現在の園舎のある場所に「仁礼・夏端統合保育園(仮)」として新園舎の建設

に入り、平成 24 年 3 月に竣工し現在に至っている。

当保育園は須坂市の南東部に位置し、仁礼コミュニティーセンターや高齢者介護福祉施設、日帰り温泉施設など、地域の文化施設や福祉施設に隣接している。また、須坂市街地から菅平高原に向かう国道 406 号線にも近く自然にも恵まれていることから、園外保育の一環としての幾つかの散歩コースがあり、日々、その自然の恩恵にあずかりながら保育を進めている。

現在、当保育園には 1 歳児と 2 歳児混合 8 名のあひる組、2 歳児 13 名のこあら組、3 歳児 14 名と 13 名のいちご組・ばなな組、4 歳児 17 名のそら組、5 歳児 25 名ののじ組などの 6 クラスがあり、それぞれの発達段階に合わせた「健康」・「こころ」・「言葉」・「創造力」・「意欲」という教育面の保育目標や養護面の保育目標の実践に向けて全職員が明朗闊達に取り組んでいる。

当保育園では、保護者のニーズに合わせ延長保育や土曜保育、一時的保育(3 才以上児)、未就園児交流、園開放、子育て相談、子育てセミナー、保育体験等も実施している。

延長保育は短時間保育の子どもが時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用される保護者がいる。また、一時的保育についても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的疲労解消等による預かり保育を行うサービスで、半日又は 1 日単位で実施している。未就園児交流は未就園児親子が来園し、在園児の様子を見たり交流し、子育て相談も行うサービスで年度初めと年度末を除きほぼ 1 ヶ月に 1 回、実施している。また、保育体験でも未就園児親子や現在通園している子どもの保護者に呼び掛け、子ども同士の関わりや保育士との関わりを見ていただき、育児の参考にさせていただいている。

当保育園では「須坂市こども・子育て支援事業計画」及び「2019 年度須坂市立保育園グランドデザイン」に沿い、当保育園としての「2019 年グランドデザイン」を明確にしており、保育園の春夏秋冬に合わせた活動をベースに「保育理念」や「保育目標・教育面」・「保育目標・養護面」を幹とし、また、「保護者・地域と共に育てる」「交流」「職員の連携」等を枝葉とし「保護者と保育士が手をとりあって、生命を大切に育て、世界にひとつだけの花を咲かせよう！」と結び、子どもたちの将来に向けての基盤づくりに励んでいる。

こうした中、当保育園は 2018 年 10 月に信州やまほいくの普及型認定を受け、春は自然の変化を感じながら多方面に散歩に出かけ春の訪れを感じ、夏は鮮やかな山の緑を見たり青田風を感じつつ七夕の笹を戴いたり小動物と出会い、秋は森に行き木の実を拾ったり落ち葉で遊んだりして生命の再生を感じ、冬は墨絵のような雪の世界に囲まれ、山手で思い切りソリ遊びをし笑顔をはじけさせている。

当保育園の保護者アンケートでも「子どもの人権の尊重」、「登降園時の保護者と職員の良いコミュニケーション」、「食事の充実」、「戸外での活動」、「子どもの発育や意欲を促す活動・遊び」、「子どもの長所の理解と個性の尊重」、「保育中の発熱への対応」などの項目に好印象を示す保護者が多く、当園の保育目標の教育面・養護面として掲げている目標に合致することも多く、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下、また、地域の様々な社会資源との関係を大切にしながら、利用する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等も行っている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) 豊かな自然環境を活かした保育

新保育所保育指針では保育の目標として「生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと」としている。

「2019 年仁礼保育園グランドデザイン」の前文には当保育園を取り巻く春夏秋冬の自然とそれに合わせた子どもたちの活動が掲げられ、また、保育目標・教育分野の「意欲」の中でも「地域の自然に触れ不思議さやおもしろさに気が付く」としてとり上げ、実践している。

当保育園は平成 30 年に信州型自然保育園の認定を受け、山、畑、果樹園に囲まれ、また、自然の変化を身近に感じることができる環境の中、散歩に出かける機会を多く取り入れ健康な体と心、豊かな感性と創造性を養っている。

春はいろいろな花の咲いている様子を見たり、わらび採りなども楽しみ、夏は水遊び（プール）、どろんこ遊びなど全身で遊び、七夕には竹林で遊び、笹を持ち帰り七夕飾りを行っている。秋には森へ行き木の実を拾ったり、紅葉、落ち葉遊びを楽しんでいる。冬は園庭での雪遊びや近くの山でそり遊びを楽しむことができる。

園庭にはクヌギ、桜、ヤマボウシの木が植えられ身近で花や実りを目にでき、園庭の一角の畑ではキュウリ、トマト、トウモロコシ、いちご、赤かぶ、大根、ほうれん草などが育てられ、生長の観察から収穫までの喜びを感じ、収穫物は食材として給食に取り入れている。

当保育園の子ども達は自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心を高めるとともに、知らず知らずのうちに自然への愛情や畏敬の念をもつようになってきており、職員も熱心に支援をしている。

2) 子ども達が「遊びこめる」日課の工夫

保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがあるといわれ、保育園はこうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならぬとされている。

当保育園は公立保育園であるため、市が準備した様々な日課や手順が確立されており、それにより一定水準の保育を提供している。

そうした中、当保育園では子ども達が「遊びこめる」日課を工夫し、訪問調査日も「どろんこ遊び」に興じ、全身を泥だらけにし楽しんでいる子どもたちの姿が見られ、職員も一緒になって泥のしぶきをあびていた。

当保育園では職員が用意したもので遊ぶ、飽きたらまた次のものを出してもらい、このような受け身の遊びを本当の「遊び」だとは考えずに、子どもの心を満たし、心身の成長に繋がる遊びには「想像力」「集中力」そしてなにより「主体性」をもって遊びこむことが大切であると考え、同じどろんこ遊びでも一人ひとりの発想により自由に遊ばせている。

制作活動についても材料を与えるばかりではなく「作り出す」ことに重点をおき、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようにしている。

職員も遊びについては工夫しており、廃材を再利用しておもちゃを作ったり、教室だけでなく時には廊下やテラスも遊び場に変身させ、広いホールなども使い、モノや場所にとらわれない、ワクワクするような遊びの環境づくりをしている。

3) 地域の人々との交流と支援

保育園には通園する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うことが求められている。

「須坂市子ども・子育て支援事業計画(平成 27 年度～31 年度)」の中でも「子どもは`宝`プロジェクト」として掲げ、「地域の子どもは、地域で育てる」、「子どもを産み、育てやすいまち」を目指し、家庭、地域、団体、企業、行政が連携しそれぞれできることを行っていく必要があることを謳っている。

当保育園の隣にはコミュニティセンター、介護福祉施設があり、また、近くには小学校や中学校があり、地域の方々と交流する機会を設けている。また、畑を借りサツマイモの栽培・収穫を通じて高齢者とも交流している。わらび採り、ブルーベリー採り、ブドウ狩りなど地域の方々からお誘いの声がかけていただき、いろいろな体験をすることができ、収穫物や本などもいただくこともあり、地域の人々と交流したり援助を沢山受け、子供たちの育ちに繋げている。

当保育園では未就園児交流として、園開放や園行事へのお誘いをしている。園開放については開園時間中、保育に支障のない限り毎日受け入れすることが可能で、ふれあうことで育児に

ついでの情報交換もしている。また、運動会やクリスマス会など、園の各種行事への声掛けも行い親子で参加していただくようにしている。

更に、年長クラスの小学生との交流、中学生や高校生の職場体験やボランティア活動の受け入れ、資格を目指す実習生などの受け入れも行い、次世代育成支援の視点からも地域の子育て力の向上に繋がるように取り組んでいる。

当保育園では地区の住環境が変化し核家族化が進み園児数も減少傾向にあるという地域の実情を踏まえ、園として育児相談やファミリーサポートについての相談を受けたり、子育て支援センター、児童クラブ、保健センター、就学前児童療育施設などと連携したり、幼・保・小連絡会議、保育士による小学1年生事業参観などに職員が出席し、その職員から内容を聞き園を取り巻く地域の現状の共有化を図り課題解決に向けて協働している。

4) 異年齢児との交流

「人（他の子供）と関わりたい」と思う気持ちは、自らの体験によってのみ獲得されるもので、他の子供と一緒に遊んだりすることを通じて、「人と関わることって楽しい」「人と関わることって苦痛なことではない」と感じるところから「人との関わり」は始まり、それが、「社会性の基礎」を形づくっていくといわれている。

子どもたちの課題は、一言で表現するなら、「人と関わるのが好き」ということで、集団活動に進んで参加できることだともいわれている。そして、年長になるにつれ、そうした関わりを通して、進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇りの獲得にもつながっていくものと思われる。

当保育園は全園児数が90名ということもあり、日頃から、全員で交流したり、異年齢のクラスが合同で散歩に出かける等の機会を設けている。未満児や3歳児は4・5歳児の真似をしてやってみようとしており、4・5歳児には未満児や3歳児を助けたり教えたりする姿が随所に見られた。特に、午睡後は、以上児が未満児を起こしに行き、体操が行われる遊戯室（ホール）へと誘い、一緒に体操を行っている。その際、布団の片付けなども手伝っており、優しさ、助け合う気持ちが園の生活の中で自然に生まれ、育っている。

年齢の異なる子ども同士で遊ぶ機会が減少している現代において、異年齢の成長の違うさまざまな子どもが集まり交流することで人の違いを受け入れる力を養うことができ、また、良好な交友関係を築く方法や価値観の違いについても考えるきっかけともなり、職員は子どもたちが年齢の垣根を越えて交流できる貴重な場づくりをしている。

◇改善する必要があると思う点

1) 保護者等への理念や基本方針の周知

保育園を利用している保護者との相互理解を深めるために、日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めることが重要であるとされている。

須崎市では平成27年度から平成31年度までの「須崎市子ども・子育て支援事業計画」が推進されており、「子どもは`宝`プロジェクト」としてビジョンが明確にされており、それに沿い「平成29年度須崎市立保育園のグランドデザイン」が策定され、保育園の目的、地域における存在意義、使命や役割等も明確に示されている。また、「2019年仁礼保育園グランドデザイン」が市の理念や方針に連動し明示されている。

当保育園のグランドデザインには保育理念や子どもの発達過程に応じた独自の「教育」・「養護」それぞれの面からの分かりやすい保育目標があり、「健康」「こころ」「言葉」「創造力」「意欲」を大切にそれぞれに具体的なコンセプトが付記されている。

市及び当保育園のグランドデザインが当保育園の事務室や各クラスに掲示されており来訪者にもわかるようになってきているが、保護者へのアンケート結果では保育園の基本的な考え方（保育目標・保育方針）が保護者に十分浸透していないのではないかとと思われる。

今後、新入児説明会や保育参観、保護者会等で各年度の市及び当保育園のグランドデザインを使用し、更に具体的に説明することで理解に繋げ、当保育園が保護者や地域の方から今以上に親しまれ、信頼される保育園になって行かれることを期待したい。

2) 更なる事故防止及び安全対策の推進

当保育園では「教育、保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」を基に保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員の共通理解や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下、交通安全指導計画では街頭指導や安全指導と並行して親子交通安全教室を開催し、安全へ備えている。

また、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じている。また、保育中の事故の発生に備え、施設内外の危険箇所の点検や訓練を実施するとともに、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な訓練も行っている。

市の園長補佐会には危機管理グループがあり公立保育園におけるヒヤリハット事例集を基に要因分析、改善策などを検討し、再発防止に向けて具体的に取り組んでいる。公立保育園で発生したヒヤリハット事例については毎週行われる職員会議の中で定期的（月1回）に話し合い、再発防止に努めている。

園内の入り口が2ヶ所あり、出入りが容易に感じられ、職員室からも来訪者が見えにくいことから不審者の侵入についての対策を更に強化するために防犯カメラの設置等について検討されることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和元年 9月26日記載）

今回、自園が行っている日頃の保育が、子ども達にとって望ましい保育だったことを確認でき、励みになりました。

これからも今まで以上に、職員間で、保育方針や保育の悩み、危機管理等について意見を交わしたり、保護者支援の仕方を更に学ぶ事により、良い保育が進められるよう取り組んでいきたいと思えます。

保護者・地域の方々には、保育の理念を機会があるごとにお伝えし、手を取り合っ
て地域の子ども達を育てていけたらと思えます。